

SRC 自主調査の調査結果について

量的調査における「孤独感尺度」等の機能的特性に関する調査研究
－UCLA孤独感尺度日本語短縮版を中心とした比較分析の結果－

調査研究の概要

- 2024年4月1日に孤独・孤立対策推進法が施行された。「孤独」への政策的な関心はWell-Being政策のメインストリーム化とともに国内外で高まっている。実態把握・解明に向けた調査・研究も国内外で進められている。
- 株式会社サーベイリサーチセンターでは、これまで孤独・孤立の実態把握やWell-Beingに関する数々の委託業務に携わってきた。今般当社では、日本国内での量的調査における「孤独」のより適切な把握に資するため、孤独感尺度の比較分析を独自に行った。比較分析に際してはアンケート調査を実施し、1000人の回答者から、それぞれ4尺度による孤独感データを収集するとともに、合わせて属性・生活実態データを収集した。分析結果については、第一弾を2024年3月に行われた日本社会関係学会第4回研究大会で報告したところである。
- 本報告は、日本社会関係学会第4回研究大会での報告内容を中心とした研究途上の報告であるが、貴重な発見を含んでいる。詳細は別添の報告書に掲載しており、本報告ではその一部を取り上げている。別添の報告書も併せてご覧頂きたい。
- 今後も、さらに検討を加えた分析結果の報告を予定している。また、調査データの有効活用に向け、希望される研究者へのローデータ提供の準備も進めている。より多くの皆様のご関心に添うことができれば幸いである。

調査研究のポイント

1. 背景と趣旨

- 孤独・孤立への関心を背景に、孤独の実態把握・解明に向けた調査・研究が進められている。「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」(統計調査法による一般統計調査)や、「社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築」研究開発プログラム(科学技術振興機構)等の大規模な調査・研究も進められている。
- 孤独の実態把握には、孤独感を測るモノサシ(孤独感尺度)が必要となる。現在、日本国内では複数の孤独感尺度が使用されており、前掲の一般統計調査でも複数の尺度が使用されている。こうした中、より適切に孤独の実態を把握していくためには、各尺度がどのような特性をもっているのかを理解した上で使用していくことが重要となる。
- 本研究では、4つの孤独感尺度を取り上げ、それらの比較を通じて各尺度の特性の解明を進めることとした。比較にあたってはアンケート調査を通じて実際に孤独感のデータを収集し、実証的に分析を進めることとした。

2. 調査・分析の概要

- 1000人規模のインターネット調査でデータを収集した。4つの孤独感尺度を一つの調査票に組み込んで同じ回答者から一度に4つの孤独感尺度で孤独感データを収集した。
- 以下①～④の分析を行った。本報告には①②④の一部を掲載する(詳細は別添資料参照)。
 - ①孤独感スコアの分布(4つの尺度では、それぞれ孤独感がどのように分布しているか?)
 - ②属性バイアス(どの属性の孤独感を測った場合でも、各尺度の測定結果に違いはないか?)
 - ③ウェルビーイング等との関係(孤独とウェルビーイングの関係を示す時、どの尺度の測定結果でも同じように示せるか?)
 - ④セルフスティグマの影響(各尺度の測定結果には、自分が孤独であるという自己偏見が影響が生じていないか?)
- 本研究で取り上げた孤独感尺度は以下の4つである。

尺度	概要説明
UCLA-SF10	信頼性・汎用性が広く認められているUCLA孤独感尺度の短縮版。孤独感を10項目の質問で測定。UCLA孤独感尺度フルバージョンとの適合が確認されている。
UCLA-SF3	UCLA孤独版尺度の短縮版。孤独感を3項目の質問で測定。「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」でも使用。
AOK	UCLA孤独感尺度を改良した尺度。孤独感を10項目の質問で測定。研究者等の調査で使用。
直接質問法	1問の質問で孤独感を直接的に把握する方法。「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」でも使用。 ※心理測定尺度としての開発されたものではないが、比較分析のため本研究独自に孤独感尺度に位置づけ。

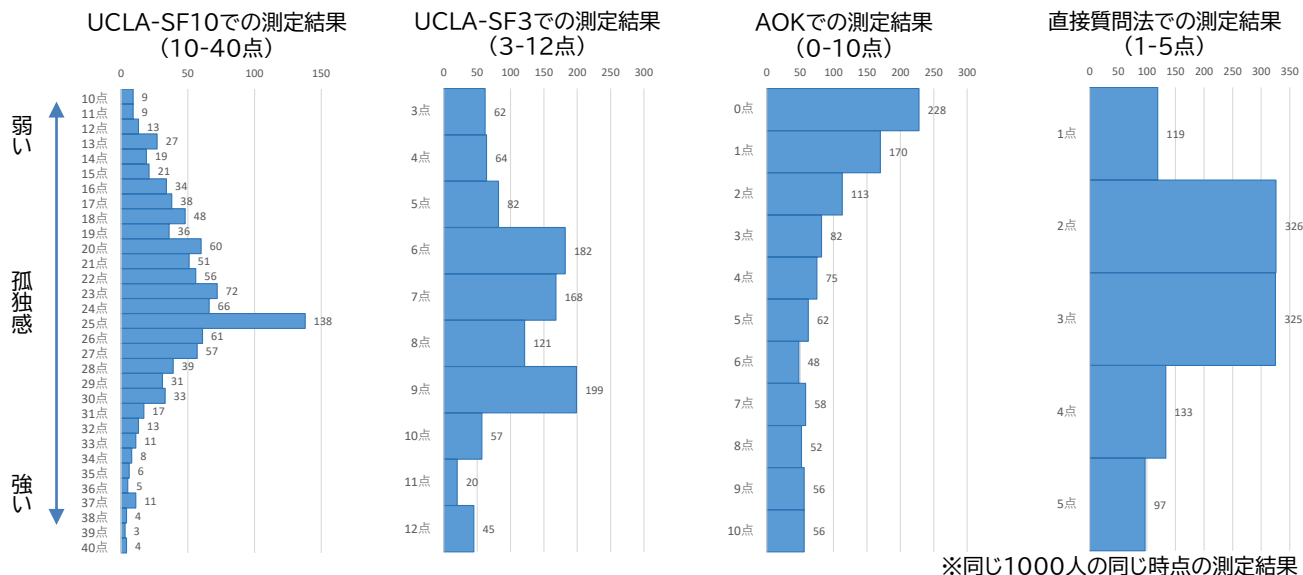
3. 分析結果のポイント

- 大まかにみれば、4つの孤独感尺度は概ね同様に孤独感を測定する【p.2】。
- 細かくみれば、属性によってUCLA-SF3と直接質問法は、UCLA-SF10やAOKよりも孤独感が相対的に弱めにスコアに反映される【p.3】。
- 孤独感を直接的に尋ねる直接質問法は、セルフスティグマ(自己偏見)を刺激している可能性がある【p.4】

1. 孤独感スコアの分布状況

各尺度の孤独感スコアの分布

- UCLA-SF10、UCLA-SF3、直接質問法では真ん中付近のスコアに多く分布する山型の分布形状となっている。
- AOKでは、0点に最も多く分布しており、他の3つの尺度とは分布形状が異なっている。
- ただし、孤独の実態把握で重要となる孤独感の強い層(＝孤独感スコアが高いほうの層)の分布が相対的に少ないことは、4つの尺度で概ね共通している。



尺度間の分布の重なり

- 4つの尺度から2つずつ組み合わせて、2つの測定結果の重なりをみると、片方の尺度のスコアが低ければもう片方のスコアも低いほうに位置している人が多く、片方の尺度のスコアが高ければもう片方のスコアも高い方に位置している人が多くなっている。概ね各尺度間の分布に整合的な重なりがあることが確認できる。
- 尺度間の相関は、強めの相関～強い相関となっている。

UCLA-SF10		10点	11点	12点	13点	14点	15点	16点	17点	18点	19点	20点	21点	22点	23点	24点	25点	26点	27点	28点	29点	30点	31点	32点	33点	34点	35点	36点	37点	38点	39点	40点	
UCLA SF3	3点	9	7	8	9	2	4	4	1	3	1	2			1	1	10																
	4点		2	5	11	8	7	7	7	6	2	3	2	1	2		1																
	5点				5	9	6	13	15	6	9	3	5	4	3	3		1															
	6点				2		4	10	13	21	10	30	16	15	12	15	20	7	2	1	3		1										
	7点								2	8	6	15	16	21	27	20	23	12	9	5	2	1			1								
	8点									4	3	5	9	10	18	12	15	13	15	12	2	1	2										
	9点										5	2	3	5	9	12	63	18	22	13	13	19	3	2	5	2	1	1	1				
	10点																2	3	7	7	6	5	9	4	4	3	3	1		3			
	11点																1	1	2	2	1	2		3	4				2	2			
12点																2	1			1	4	3	4	3	2	3	4	2	5	4	3	4	
UCLA-SF10		10点	11点	12点	13点	14点	15点	16点	17点	18点	19点	20点	21点	22点	23点	24点	25点	26点	27点	28点	29点	30点	31点	32点	33点	34点	35点	36点	37点	38点	39点	40点	
AOK	点	8	9	11	19	14	14	21	16	25	15	20	13	9	11	5	13	1	4														
	1点	1		2	6	3	5	11	14	11	13	19	15	22	16	9	18	4				1											
	2点				2	2	2	1	6	8	4	12	12	9	14	12	20	5	4														
	3点							1	1	2	3	3	6	4	12	15	16	7	8	2		2											
	4点								1	1		5	3	5	7	5	24	9	8	3	2		1			1							
	5点										1	1	1			7	8	15	8	7	5	3	4			1			1				
	6点													1	2	2	4	5	8	12	4	6	2	1								1	
	7点												1	3	2	3	8	7	7	9	8	2	4	2		2			2				
	8点														1	3	8	4	4	7	7	2	6	5	6	4					1		1
	9点													2		2	4	4	2	7	3	11	4	1	4	2	2	1	5	1	1		
10点															2	4	4	2	7	3	11	4	1	4	2	2	1	5	1	1			
UCLA-SF10		10点	11点	12点	13点	14点	15点	16点	17点	18点	19点	20点	21点	22点	23点	24点	25点	26点	27点	28点	29点	30点	31点	32点	33点	34点	35点	36点	37点	38点	39点	40点	
直接質問	1点	8	7	10	12	9	8	11	9	9	3	3	3	3	4	5	9	1	3	1			1										
	2点	1	2	3	14	9	7	20	21	28	19	41	22	22	22	36	8	8	7	7	1	2		3									
	3点					1	5	2	7	11	10	14	19	24	35	28	63	34	30	14	9	11	4	1	2		1						
	4点				1		1	1	1		2	1	5	5	10	10	23	14	10	12	9	12	5	2	1	1	2	1	3	1			
	5点									2	1	2	2	1	1	7	4	6	5	6	9	5	10	5	7	3	4	7	3	3			

※クロス集計表の数値は人数

UCLA-SF3		3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	11点	12点
AOK	0点	45	37	39	63	28	9	6	1		
	1点	6	12	25	35	43	25	21		1	2
	2点	1	8	10	27	24	13	30			
	3点	1	3	3	14	15	22	17	6	1	
	4点	4	1	4	13	14	7	23	7	1	1
	5点	3			6	13	10	20	5	1	4
	6点				6	10	8	15	5	2	2
	7点	1	2		10	6	12	11	7	4	5
	8点	1	1		3	7	8	18	6	3	5
	9点			1	4	6	6	13	11	4	11
	10点				1	2	1	25	9	3	15

		UCLA-SF3										
		3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	11点	12点	
直接質問	1点	46	27	15	18	7	3	1		1	1	
	2点	10	33	48	111	64	32	21	4	1	2	
	3点	5	4	14	39	82	49	111	16	2	3	
	4点			3	10	11	31	49	17	4	8	
	5点	1		2	4	4	6	17	20	12	31	
		AOK										
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
直接質問	1点	70	21	8	6	4	4	3	1	1	1	1
	2点	115	80	41	22	18	16	8	18	6	1	1
	3点	37	54	50	40	32	24	22	19	20	16	11
	4点	6	15	10	10	13	13	9	10	12	20	15
	5点			4	4	8	5	6	10	13	18	29

相関係数

	UCLA-SF10	UCLA-SF3	AOK	直接質問法
UCLA-SF10	1.000	0.803	0.766	0.651
UCLA-SF3	0.803	1.000	0.605	0.680
AOK	0.766	0.605	1.000	0.588
直接質問法	0.651	0.680	0.588	1.000



2. 属性別の孤独感の測定結果(4つの尺度間の測定結果の比較)

- ※ 孤独感スコアの範囲が尺度によって異なるため、尺度間の比較においてはスコアを調整(標準化)してから分析を行っている。表の数値は調整後の数値(標準化得点:z値)。
- 回答者を40の属性でとらえ、各属性の孤独感を尺度間で比較したところ、9つの属性(男性、女性、45-59歳、学生・生徒、単身、社会的孤立、非孤立、交流なし、交流あり)で測定結果に有意な差(統計的に意味のある差)があることが確認された。孤独感尺度の開発過程では、特定の年齢層(特に高齢者)の測定の信頼性確保が大きな課題となってきたが、本調査では主にそれ以外の層の測定結果で尺度間に有意な差がみられた。
 - 尺度間で差があることが確認された属性において、UCLA-SF10(フルバージョンに代用した尺度)とその他の各尺度の測定結果を比較すると、男性及び女性ではUCLA-SF3及び直接質問法で有意な差があった。男性ではUCLA-SF3及び直接質問法での測定結果がUCLA-SF10の測定結果よりも有意に低く、女性では有意に高くなっていた。また、社会的孤立層、非孤立層、交流なし層でも、UCLA-SF3及び直接質問法の測定結果はUCLA-SF10の測定結果と有意な差があった。
 - 40属性のうち31属性では各尺度の測定結果に有意な差は確認されておらず、概ね同等に測定されていた。

区分		属性・状態	n	UCLA-SF10	UCLA-SF3	AOK	直接質問法	有意差
本人状態	性別	男性	498	0.145	0.035*	0.156	0.021*	*
		女性	502	-0.144	-0.035*	-0.155	-0.021*	*
	年齢	15-29 歳	194	-0.033	0.006	-0.083	0.027	
		30-44 歳	246	0.122	0.122	0.032	0.106	
		45-59 歳	289	0.182	0.146	0.239	0.085	*
		60-74 歳	271	-0.282	-0.271	-0.225	-0.206	
	最終学歴	中等教育(※専門学校を含む)	418	0.013	0.004	0.036	0.024	
		高等教育	582	-0.009	-0.003	-0.026	-0.017	
	職業	正規雇用	412	0.046	-0.005	0.028	-0.040	
		非正規雇用	199	-0.069	-0.035	-0.037	0.045	
		役員	16	0.012	-0.123	0.217	0.100	
		自営業	87	0.032	0.020	0.018	0.098	
		内職	6	-0.050	0.357	0.023	0.211	
		学生・生徒	29	-0.203	0.077	-0.399	-0.004	*
		就業していない(求職中)	34	0.378	0.277	0.169	0.315	
		就業していない(求職していない)	217	-0.013	-0.010	-0.006	-0.011	
	健康状態	よくない	178	0.518	0.502	0.584	0.600	
		ふつう	351	0.125	0.113	0.124	0.064	
		よい	471	-0.289	-0.274	-0.313	-0.274	
経済状態	世帯収入	100 万円未満	75	0.294	0.182	0.352	0.175	
		100~300 万円未満	188	0.194	0.172	0.218	0.220	
		300~500 万円未満	288	-0.075	-0.052	-0.066	-0.076	
		500~1000 万円未満	332	-0.059	-0.063	-0.099	-0.049	
		1000 万円以上	117	-0.146	-0.087	-0.129	-0.139	
	住居	借家	335	0.123	0.124	0.048	0.110	
		持ち家	665	-0.062	-0.062	-0.024	-0.055	
社会関係状態	婚姻状況	未婚	334	0.351	0.283	0.346	0.322	
		既婚(離死別を含む)	666	-0.176	-0.142	-0.173	-0.162	
	世帯類型	単身	214	0.252	0.146	0.279	0.190	*
		二人以上	786	-0.069	-0.040	-0.076	-0.052	
	ソーシャルネットワーク	社会的孤立※1	580	0.401	0.285*	0.429	0.255*	*
		非孤立	420	-0.553	-0.394*	-0.593	-0.352*	*
居住環境	交流	交流なし※2	170	0.591	0.402*	0.720	0.393*	*
		交流あり	830	-0.121	-0.082	-0.147	-0.081	*
	人口規模	10 万人未満	222	0.110	0.150	0.091	0.014	
		10 万人以上	146	0.003	-0.048	0.057	-0.033	
		20 万人以上(大都市除く)	243	0.021	-0.016	-0.003	0.020	
		大都市(政令市・特別区)	389	-0.077	-0.057	-0.071	-0.009	
	住居形態	共同住宅	463	0.054	0.054	0.000	0.047	
		一戸建て	537	-0.047	-0.046	0.000	-0.041	

・数値は、回答者全体の孤独感スコアの平均値を0として標準化した値(z値)。属性のスコアの平均値が回答者全体の平均値よりも高ければ、すなわち回答者全体よりも孤独感が強ければ「+」の値となる。値が大きいほど孤独感が強いことを示す。「-」はその逆。視認性を高めるため「+」を赤色、「-」を青色で示している。

: 尺度間で測定値に統計的に意味のある差があったかどうかを確認し、意味のある差があったと確認された場合に「」印をつけている。「有意差」欄の「*」: 4つの尺度間のいずれかで測定値に差があったことを示す(反復測定一元配置分散分析の結果。有意水準: 5%)。「UCLA-SF3」「AOK」「直接質問法」欄の「*」: UCLA フルバージョンに代用した UCLA-SF10 と比べて差があったことを示す(Dunnett 検定の結果。有意水準: 5%)。

※1: 社会的なつながり・孤立を測定する尺度(LSNS-6)で社会的孤立に相当する者

※2: 家族・親族との交流が月1回未満かつ、友人との交流が月1回未満(LSNS-12の交流頻度で配点0に対応するカテゴリー区分を使用)。

3. セルフスティグマの刺激(4つの尺度間の測定結果の比較)

- 孤独感尺度の開発、孤独感の測定においては回答者のセルフスティグマ(自分は孤独だという自己偏見)を刺激しないように配慮されてきた。他方、直接質問法では孤独感を直接聞く方法がとられている。本研究では各尺度でセルフスティグマの影響を抑えることができていないか把握を試みた。
- 把握方法は次の通りである。「孤独のセルフスティグマが刺激されれば孤独感を測る質問に対して回答拒否感を抱く」を前提に「回答拒否感を抱けば(すぐに回答できず)アンケートの回答時間が長くなる」と仮説を設定し、回答拒否感と回答時間との関係を求めた。
- 各尺度の分析結果を比較すると、直接質問法への回答拒否感があれば回答時間が長くなる関係があることが確認された。他の尺度への回答拒否感と回答時間とは同様の関係は確認されなかった。この方法ではセルフスティグマ及び測定値への影響を直接的に測っているわけではないが、直接質問法はセルフスティグマを刺激している可能性があり、その影響を受けている可能性もあると考えられる。

アンケート回答時間（秒）の長さを説明する係数						
		試算ケース1	試算ケース2	試算ケース3	試算ケース4	試算ケース5
（調整済R ² ）		0.041	0.040	0.040	0.040	0.044
標準化係数（β）						
属性	女性	0.048	0.048	0.048	0.048	0.047
	年齢（歳）	0.181*	0.180*	0.180*	0.180*	0.177*
	世帯人数（人）	0.069*	0.069*	0.069*	0.069*	0.069*
	アンケート経験回数（最近1年）	0.065*	0.065*	0.065*	0.065*	0.064*
	UCLA-SF10の回答拒否感		0.006			
UCLA-SF3の回答拒否感				0.007		
AOKの回答拒否感					0.005	
直接質問法の回答拒否感						0.065*

上表の見方について

- ・ 5ケースの試算を行った。試算には重回帰分析という統計解析方法を用いた。
- ・ 表中の「*」は有意であること(統計的に意味があること)を示す(有意水準:5%)。
- ・ 「*」のついている項目に注目し、その係数の値の大きさと符号に注目する。係数の値が大きいほどアンケート回答時間の長さを大きく説明する。また、係数の符号が「+」であればアンケートの回答時間が長くなる方向に、「-」であれば、アンケートの回答時間は短くなる方向に効いている項目であることを示す。例えば、試算ケース1の「年齢」の係数の値は他の項目の係数の値よりも大きい。これは他の項目よりもアンケート回答時間を大きく説明することを示す。年齢の符号は「+」である。これは年齢が高くなるほどアンケート回答時間が長くなることを示す。
- ・ 直接質問法の回答拒否感 はアンケート回答時間に有意に効いており、係数の符号は「+」である。拒否感があると回答時間が長くなることがわかる。他の尺度への回答拒否感の係数の値は小さく、アンケート回答時間にとって有意な説明項目とはなっていない。
- ・ 回答拒否感 は、「答えたくなかった質問」として同じアンケート内で把握したものである(詳細と調査票は別添レポートを参照)。

調査概要

調査実施概要											
● 調査タイトル:「日常生活に関する調査」 ● 調査対象:日本国内に住む15～74歳 ● 対象者数:1000人 ● 回収割当:性別(2)×年齢別(4)×地域別(6)の48層に層化し、令和2年国勢調査の人口構成比で割当 ● 調査方法:インターネット調査(パネルモニター調査) ● 調査期間:2023年9月27日～10月4日 ● 調査内容:孤独感(4尺度の尺度別孤独感)、主観的ウェルビーイング・精神状態(孤独感の関連変数:主に孤独感に説明される変数)、属性(孤独感の関連変数:孤独感を説明する変数)、生活行動・環境(孤独感の関連変数:説明・被説明に使用する変数)、回答拒否感(孤独のセルフスティグマ検討用の変数:調査で答えたくなかった質問を聞いたもの)											

回収票の構成		男性					女性					計
		15-29歳	30-44歳	45-59歳	60-74歳	計	15-29歳	30-44歳	45-59歳	60-74歳	計	
	北海道・東北	10	13	15	16	54	9	13	16	18	56	110
	関東	37	47	54	42	180	35	44	51	44	174	354
	中部	18	22	27	24	91	17	21	26	26	90	181
	近畿	16	19	23	20	78	16	20	24	23	83	161
	中国・四国	8	10	12	12	42	8	10	12	13	43	85
	九州・沖縄	10	13	14	16	53	10	14	15	17	56	109
	計	99	124	145	130	498	95	122	144	141	502	1,000

● 会社名	株式会社サーベイリサーチセンター
● 所在地	東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
● 設立	1975(昭和50)年2月
● 資本金	6,000万円
● 年商	106億円(2022年度)
● 代表者	代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
● 社員数	社員:317名 契約スタッフ:484名(2023年3月1日現在)
● 事業所	東京(本社)、札幌、盛岡、仙台、北陸、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
● 主要事業	世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
● 所属団体	公益財団法人 日本世論調査協会 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA) 日本災害情報学会 一般社団法人 交通工学研究会 他
● その他	ISO9001認証取得(2000年6月) プライバシーマーク付与認定(2000年12月) ISO20252認証取得(2010年10月) ISO27001認証取得(2015年11月)※ ※認証区分及び認証範囲: ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供 ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

本件に関するお問い合わせ先

株式会社サーベイリサーチセンター

<https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当:品質部 松下 正人 E-mail:src_support@surece.co.jp
TEL:03-3802-6779 FAX:03-3802-6729
- 調査担当:世論計画部 木村浩巳 E-mail:kimura_h@surece.co.jp
TEL:03-6826-4666 FAX:03-6826-4777
- 研究者の方にはローデータの提供が可能です。ローデータに関しては調査担当にお問い合わせください。
- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として「株式会社サーベイリサーチセンター(東京都)」を必ず明記して利用してください。
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます。
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです。